

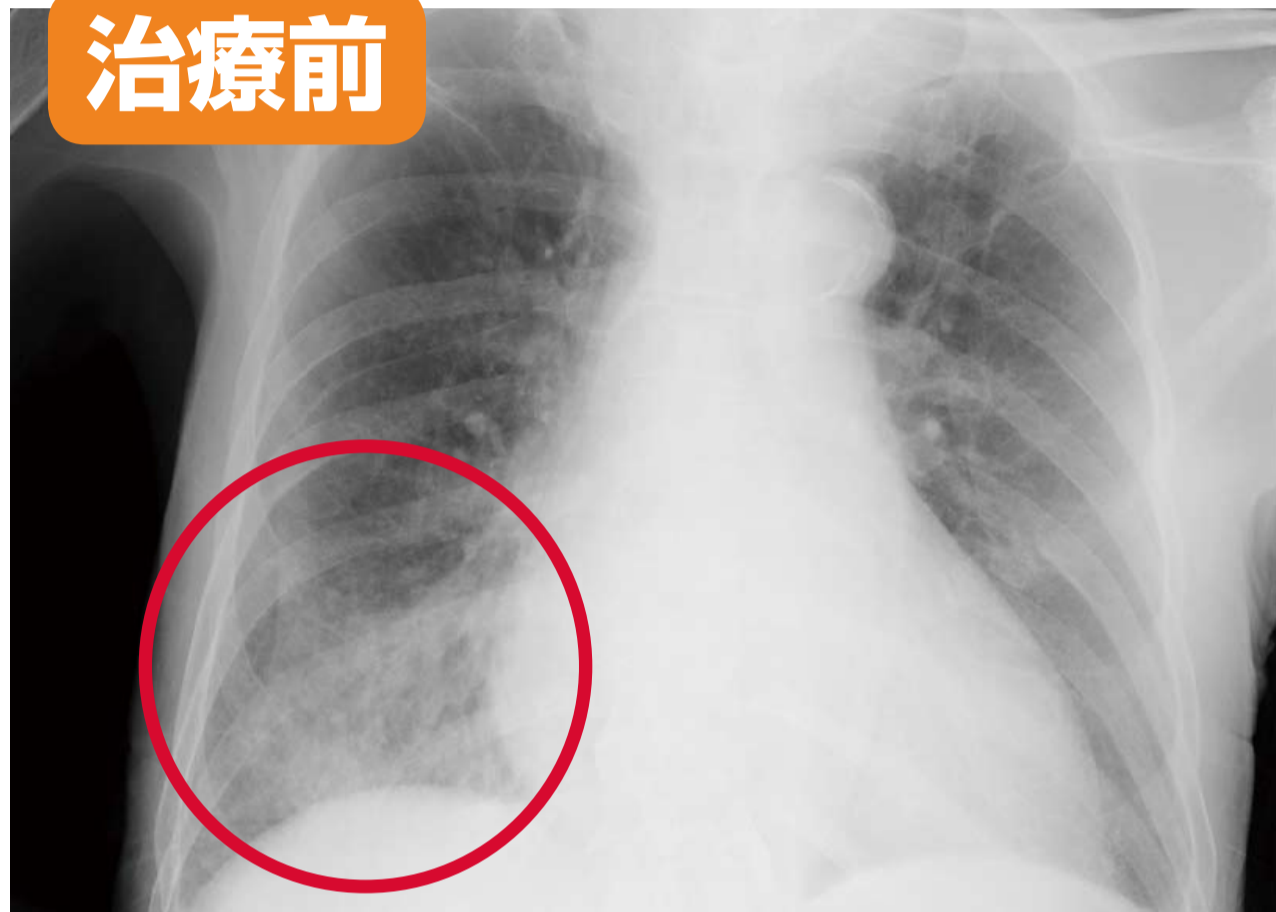
誤嚥性肺炎

監修/写真提供：市ヶ尾カリヨン病院 医局長 呼吸器科専門医 瀬戸武志先生

介護者も
ケアに努めること
が重要

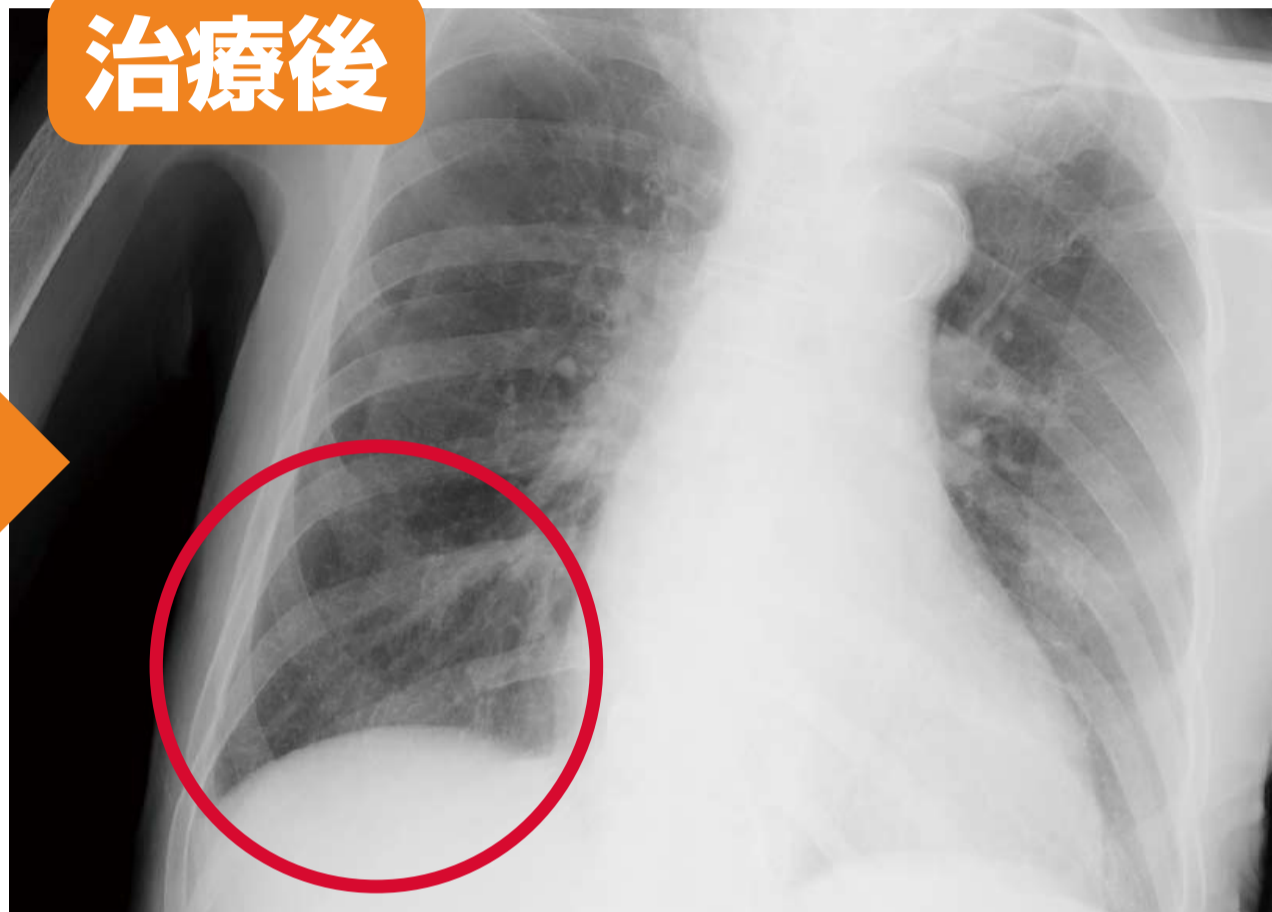
誤嚥性肺炎とは誤って食べ物や細菌などの異物を気管内に吸い込んでしまったこと(=誤嚥)が原因で起こる肺炎です。高齢者や、病気や老衰が原因で嚥下反射機能(気管に異物が入らないように働く力)が衰えた人がかかりやすい病気です。

治療前



誤嚥性肺炎にかかった80歳代男性の患者のX線写真。肺の一部が白くなっている

治療後



治療後、肺の炎症がおさまった状態

誤嚥性肺炎の主な3つのタイプ

- 1 食事中に誤嚥し、誤嚥物に細菌が付着していた
- 2 口腔内に生息している細菌叢(虫歯、歯周病など)からの分泌物を睡眠中などに誤嚥
- 3 食後すぐに横になって寝たため、少量の胃の内容物が逆流し、それを誤嚥

誤嚥性肺炎には主に上の3つのタイプがあり、背景に神経系疾患(脳血管疾患を含む)や認知症などの基礎疾患がある場合もあります。

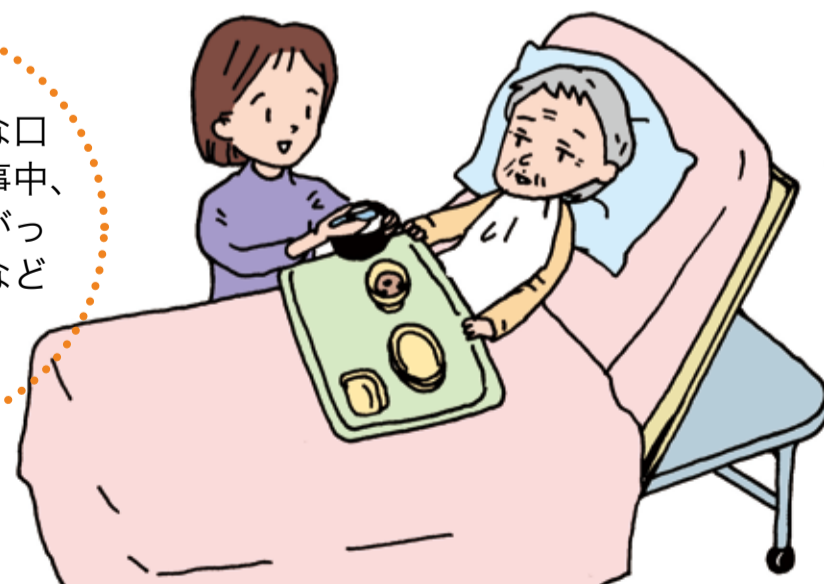
誤嚥性肺炎患者の胸部CT画像。白っぽくなっている部分が患部



誤嚥性肺炎の予防法

口腔ケア	虫歯や歯周病などの歯科治療、食後の歯磨き、うがいなどの口腔ケア(歯がない場合も湿らしたガーゼなどで口の中を拭い、清潔に保つ)
食事	食事形態の工夫(お茶や汁物にとろみをつけるなど)
姿勢	胃からの逆流を防ぐため、食後はすぐに横にならずに起き上がった姿勢で2時間過ごすようにする

介護者はまめな口腔ケアや、食事中、食後は起き上がった姿勢にするなどの気配りを



健康
豆知識

誤嚥性肺炎の症状と治療法

誤嚥性肺炎は通常の肺炎と同様に咳や痰、発熱などの症状がありますが、自分で不調を訴えることが困難な人がかかる場合が多いため、介護者はいつもと違った症状(発熱や咳・痰が多くなったなど)に早めに気づき、かかりつけ医に相談するよう心がけましょう。治療は抗生物質の投与を行います。再発を繰り返す場合は、嚥下反射を改善する効果を期待できる薬(降圧薬、脳梗塞予防薬、漢方薬など)を補助的に使うこともあります。